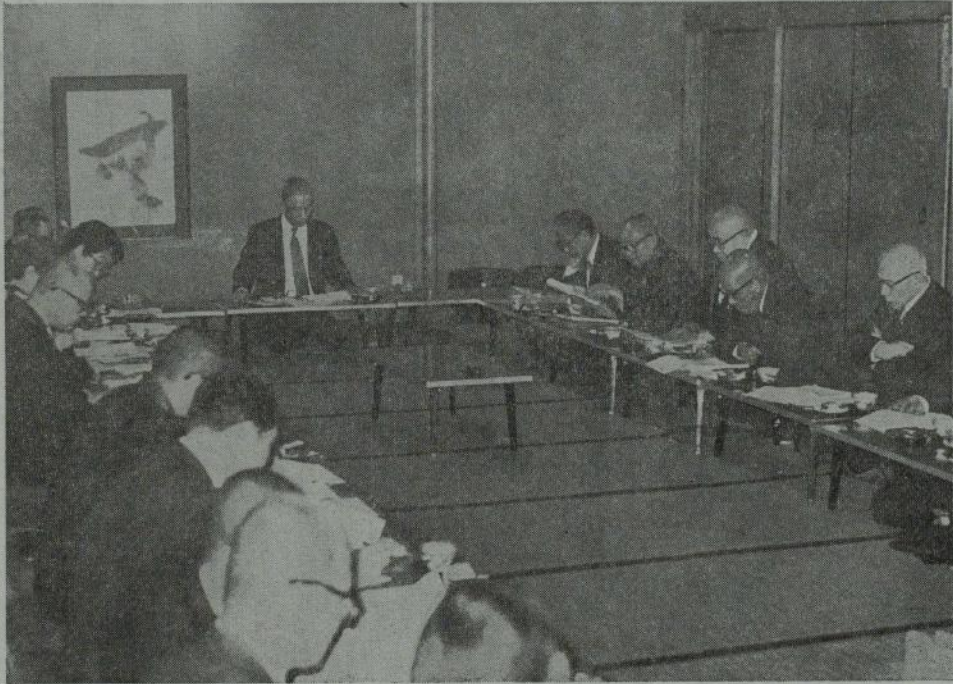


NO.185

全 仏

3 / 48



(昭和48年度・全仏予算及び事業計画を審議
する評議員会

—2月19日—

財団法人 全日本仏教会

全仏・四十八年度

予算及事業計画を決定

本会の昭和四十八年度予算及事業計画を決定する理事会および評議員会がさる二月十九日、東京本願寺記念館において開催され、提出議案がそれぞれ承認された。

歳入歳出予算案は、四十七年度より二一三万三〇九九円増の三二〇八万二六二〇円（歳入歳出差引残高なし）が承認された。この内、目立った款項目は歳入の部で宗派負担金が基本割の一ヶ寺一六〇円が一八〇〇円にアップされたのを含めて二二六万七九〇〇円増となったのをはじめ、歳出の部では時局対策費が八五万円増の一三五万円と増額され、二十年記念事業費として一〇〇万円が計上された。事業計画案については次の事項がそれぞれ承認された。

【総務局】

基本目標

本会寄付行為第五条により各種の事業遂行に必要な措置を構する。

- 一、加盟団体との連絡提携の強化
- 二、財団の基金対策
- 三、全仏制度調査委員会の答申に基づく具現化
- 四、全仏創立二十周年記念事業の遂行

【組織局】

基本目標

本会寄付行為第五条の事業目的たる仏教運動の実践および育成を主とし、時代に即応した全一仏教運動を強く推進すると共に構成団体の一層の強化と團結を期するため下記の事業を実施する。

実施項目

- 一、第二十一回全日本仏教徒会議の開催
- 二、未加盟団体の加盟促進
- 三、ブロック別各県仏教会代表者会議の開催
- 四、講習会の開催
- 五、地方仏教運動の推進、地方仏教徒大会、講演会等への協力
- 六、各地檀信徒会の充実と全国組織化の推進
- 七、時局対策
- 八、過年度大会採択事項の実施（担当事項）

【国際文化局】

基本目標

本会の寄付行為第五条の事業目的たる世界各国のWFBセンターおよび仏教諸団体との連絡、文化交流を中核として、仏教による国際親善と平和世界の実現を期する。および仏教運動の総合的企画促進、各種仏教運動の実践育成

並びに弘報活動を活発に行なうことによつて、全一仏教運動の促進をはかる

国際部

実施項目

- 一、WFB関係
 - (イ)本部で決議された事項の実施
 - (ロ)常任理事会および仏青会議、高等教育者会議等への出席および代表派遣
- 二、その他必要な事項

二、国際仏教交流関係

- (イ)臨時に行なわれる国際会議または巡拝団等への代表派遣
- (ロ)訪日仏教徒の歓迎接待
- (ハ)在日各国公館との連絡交渉
- (ニ)海外における各宗派開教本部等との連絡提携
- (ヘ)インド日本寺落慶法要等に対する協力
- (ホ)在日仏教留学生との交流親善
- (ロ)韓国仏教図書館への仏書運動の展開
- (ハ)英文仏教百科辞典編纂への協力
- (ロ)各国の天災戦災等への救援活動
- (ハ)遺骨収集事業への積極的協力
- (ロ)その他必要な事項

三、渉外広報関係

- (イ)日本仏教ガイド書の刊行（継続）
- (ロ)英文「全仏ニュース」の年二回発刊
- (ハ)その他必要な事項

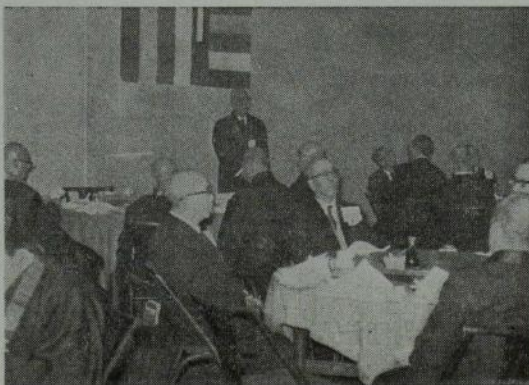
文化局

実施項目

新年懇親会盛會

- 一、機関紙「全仏」の発行と普及
- 二、日本仏教文化会議の企画及び開催
- 三、各宗教化担当者会議の開催
- 四、全一仏教聖典の普及
- 五、各種教化資料の作成と普及（仏教徒読本編纂、花まつりポスター等）
- 六、その他弘報宣伝に関する事項
- 七、過年度大会採択事項の実施（担当事項）

一月二十五日、京都御池飯店に金子白威副会長をはじめ、全仏関係者六十余名が参集して盛大に催された。昨年暮の衆院選をうけて、永末英一、中山正暉両議員もはせ参じ、代議士多数からも祝電が寄せられた。なお、当日これに先立ち常務理事会、宗務総長会議がもたれた。





去年の春のお彼岸
だった。墓地へゆくと若い父親がせつせと掃除をしている。
「おい、珍しいじゃないか。君も信心が出てきたな」

彼はぼくの友人の弟さんだった。先年あいついで両親が亡くなり、ぼくの寺のお檀家になったのである。
「じつはね。今日がうちの息子の入試発表なんですよ」

「ほほう、大学かね。それでおじいちゃんにお願いして合格を……」
「違うんですよ。奴は現役だから一寸むずかしいと思うんです。その落ちたときに」

「落ちたときに——」
「おじいちゃんに説教してもらおうと思いましてね」

彼の父親は立派な教育者であった。彼自身が一年浪人して再び受験に失敗したとき、じつに肝に銘じた話をしてくれたという。ぐれもせず、恥ずかしい思いもせず、彼は新たなファイトを燃やして二年間の浪人生活へはいつていった。そして合格した。

「おじいちゃんはどうな説教をしてくれたんだね」
「お前は学力で落ちたんじゃない。精一杯の努力をこの一年間してきたことは、この俺が認める。ただ今度失敗したのはお前の人間的なもので向かが欠けていたんだな、その欠けていたものを、これからの一年間で補うんだ。そんなことを言ってくれましてっけ」

不合格報告

作家 寺内大吉

「良い話だね」
「うちの息子は高校でトップだとか言っで威張ってます。落ちてくれた方がいいんですよ。そのときおじいちゃんがしてくれたのと同じ話をします」
「君の口からだね」
「そうなんです。今こうやってお願いして」

てるのは、ぼくが話すとき死んだおじいちゃんにも傍へ来ていてもらいたいと思うからです」
この奴も立派な父親になったな、とぼくは感心した。いやあの受験失敗のときおじいちゃんからしてもらった説教が立派に彼の胸のなかで生きていたんだな、とぼくは思った。

——不死というものが存在するのは、子孫が追憶してくれるからである。
これは西欧の近代哲学が結論した不死観だが、まさしく先人の良き意志は、その子どもや孫によって追善されてこそ永遠に生きるのである。

「遺伝」と言えば、とかくわれわれは肉体上の現象でしかそれをとらえようとしていない。だが近代の実証哲学者たちは、すでに精神上的の「遺伝」について考察を深くしている。
なぜわれわれは、生まれながらにして「善」の意志を所有しているのだからか。正しく立派に生きた先人から遺伝したもので、という説である。そのなかでも無私の信仰心こそ、人間にとって最も美しい遺伝だと学究たちは言いきる。

この二十世紀の文明社会において、すでに科学と宗教とは敵対関係に終始符を打ってしまったのだ。同じスタート地点から始動しようとしている。
いみじくもぼくは若い父親から教えられた。われわれの「彼岸」が何かということである。

入試にのぞんだわが子のことを、その先祖（父親）に祈った。だがそれは先祖の靈力にすがって「合格できますように」と祈る呪術ではなかったのである。

父親の予測どおりその息子は受験に失敗した。彼岸の明けの日、父子は連れ立って寺へやってきた。

「これから説教してきますよ」
ひと足先にお線香を息子に持たせて墓地へゆかせた父親はぼくに言った。
「いや、何にも言わない方がいいだろう」「説教しなくてもいいですかね」

「いいとも」「なぜです」

「寺まできてるんだ。あの坊や、落胆したりぐれたりなんかしないぜ。はり切った浪人生活へはいつてゆけさ」
「そうですかね……そうですね」

父親はにっこりと笑った。ア力桶をさげると小走りに息子のあとを追った。

不合格報告をおじいちゃんの前でする父と子——
ぼくはこのお彼岸でいちばん立派な修養をしたのは、この父子だと思った。

冬の気配を全く忘れた季節と同じように、ぼくは肌にも豊かなぬくもりをおぼえた。

中央講習会を開催

三月五日(月)午前十時から、東京池上の日蓮宗宗務院において、文化庁後援のもとに開催する。

- 一、宗教法人管理運営上の問題点
文化庁宗務課長佐伯信男氏
- 二、宗務法人税務事務一般について
国税庁法人税課 戸島利夫氏
- 三、法人税法(特に不動産貸付業)について

“宗教法人税務のすべて”の著者 桜井 四郎氏

人類の危機を救おう、仏教で

大会スローガン決まる

既報のとおり、今年の全仏大会は、来る六月二十六・七日、東京池上本門寺を会場に、第二十一回全日本仏教徒会議、全仏結成二十年記念池上本門寺大会として開催されるが、このほど、今大会が全仏主催、東京都仏教連合会および本門寺共催で行なわれることが確認された。

大会準備委員会結成

昨年暮に大会関係の全仏、東仏、本門



(準備委員会一月十一月)

寺および日蓮宗より委員の推選を願ひ、一月十一日の第一回準備委員会において正副委員長を互選して発足した。大会準備委員長には、本門寺執事長酒井謙祐師が選出された。委員は次の各師(敬称略)

●委員長 ○副委員長

全仏関係 ○真溪義貫 ○板橋宥成 白川良純 伊東堅純 岩本英樹 古屋道雄 他一名未決

東仏関係 ○郡司博道 神野真一 村瀬博道 新井智清 池野昌玄

本門寺及日蓮宗関係 ○酒井謙祐 三井宣雄 石川存静 中野顕文 小高忠能

○新川日見

なお、以上の委員のほか全仏前文化部長阿部顕瑞氏、前組織局主事福井清俊氏が事務局嘱託として大会の事務処理に当ることになった。

テーマ別に部会を編成

引きつづき第二回を二月七日に、第三回を二月十四日に開催し、その間正副委員長会議も開いて、大会の規模、形式、スローガン等が協議され、およその構想がまとまった。

規模として参加人数は、会場の本門寺本仏殿および部会場となる朗峰会館の収容関係もあって、加盟団体よりの代表者

約七〇〇名程度になるもよう。

大会日程は、第一日目午前中に式典、総会、午後に入って部会、夕刻レセプション、翌二日目に部会報告、決議があったところを終了する。本年は特に全仏結成二十年に当るので記念式典および関係物故者追悼法要が営まれる。

会議運営は従来のような檀信徒部会、婦人部会等の部会方式をとらないで、現在仏教界が直面する諸問題をとり上げ、その問題別のテーマのもとに、数部会を編成することになった。これらの部会と合わせて宗派代表者会議、各県仏教会代表者会議が開かれる等、新しい方向が打ち出されている。

大会スローガンについては、種々案が出された中から検討を加え、「人類の危機を救おう、仏教で」と決定した。このスローガンをもとに、大会趣旨の原案作成、ポスターの作成にかかっている。

「全一仏教聖典」

再刊 頒布中

一昨年発行した「全一仏教聖典」は各方面から好評を頂き、在庫がなくなっていたが、今回、体裁活字等を改め、新たに仏教聖歌も多少加えて、頒布することになった。

大きさは、新書版一〇二頁、紙かがりとして、頒布価格は二百円。送料別。内容は、第一部「勤行式」、懺悔文、三篇依文、開経偈、四弘誓願、成仏偈。

第二部「諸宗聖教」、正信念仏偈、普門品偈、般若心経、光明真言、自我偈、修正義。付録「仏教聖歌」

全仏人事

渡辺弘子 総務局雇員(二月十六日付)

事務局録事(二月)

- 八日 事務始
 - 十一日 局内会議
 - 〃 第一回大会準備委員会
 - 二十日 局内会議
 - 二十五日 常務理事会宗務総長会議
 - 〃 新年懇親会
 - 三十一日 準備正副委員長会議
 - 〃 局内会議
- (二月)
- 七日 第二回準備委員会
 - 九日 局内会議
 - 〃 ボロボールド視察団説明会
 - 十二日 日宗連特別税制委員会
 - 十四日 第三回準備委員会
 - 十五日 混餐会
 - 十九日 理事会、評議員会
 - 二十日 大会ポスター打合せ
 - 二十一日 局内会議
 - 二十二日 文化専門委員会
 - 二十六日 ボロボールド視察団出発

仏跡ボロブドール視察団出発

全仏主催のボロブドール視察団（団長金子貫達）二十名は、二月二十六日朝JAL七一一便で東京を発った。
ジャカルタ着後インドネシア仏教会を訪問、そのあとボロブドールを視察するボロブドールはカンボジアのアンコールワットと同様な仏跡で、ジャワ中部の古

都ジョクジャカルタ郊外にある八世紀に作られた世界最大のもの。最近崩壊の危機にさらされ、今夏よりユネスコの手により修復工事がはじめられることになっている。一行は、バリ島、シンガポールをまわって三月八日夜帰国する。



団員

大島宗四郎

長
大洋社製本所社
新宿区山吹町四



副団長

田中 政海

豊山派金乗院住
職
埼玉県所沢市上
山口二〇三



副団長

長谷川俊明

あそか病院理事
鎌倉市浄明寺一
一四



団長

金子 貫達

浄土宗聖徳寺住
職
長崎市銭座町四
一五九



長妻 鉄子

妙経寺信徒
葛飾区東立石三
一五一一三



同夫人

山口 蓮子



山口 智光

日蓮宗妙経寺住
職
台東区元浅草二
一五一三



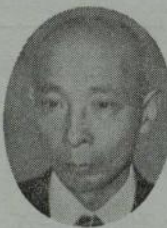
同夫人

大島 千子



金子 賢子

浄土宗聖徳寺寺
族
長崎市銭座町四
一五九



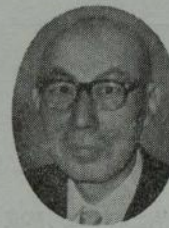
鳥居 観順

浄土宗
世田谷区奥沢七
一四一一三



成田 光穂

浄土宗天聖寺住
職
八戸市十六日町
二七



豊吉 宗寿

大徳寺派天真寺
住職
港区南麻布三十一
一一一五



島田稲太郎

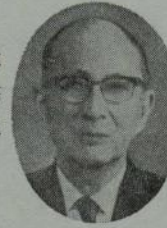
島田屋本店社長
品川区東五反田
二一三一四



添乗員

相川 忠重

千代田トラベル
港区南青山五一
六一二〇



事務員

服部 光順

全仏組織文化局
主事
浄土宗昌清寺
文京区本郷一
八三三



事務員

麻布 照海

全仏事務総長
本願寺派善福寺
住職
港区元麻布一一
六一二一



町田 国夫

日本仏教鑑仰会
千代田区内神田
二一三一五



田中美美子

豊山派金乗院寺
族
所沢市上山口二
二〇三

昭和48年3月1日

統一ポスターで花まつりを

仏教界最大の年中行事として年々全国的に盛大に繰り広げられていた花まつりを、さらに大衆に浸透せしめるために、全仏では昨年度から全国的規模で統一ポスターの普及を推進してきたが、大変好評を博し多数団体にご利用頂いているの

* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日

花まつり



で、本年も同ポスターを各県都市仏あるいは各寺院、幼稚園等に於て、広くご利用して頂くよう左記要領にて頒布します。ポスターはカラフルな荘厳味豊かなものである。

◎一枚 五十円 (二十枚以上は送料本会負担)

◎ポスター下部余白に、主催団体名、開催月日、会場等の印刷もご相談に応じます。費用は枚数に余り関係なく、およそ五千円くらいです。

韓国仏教図書館

仏書寄贈感謝録(二) (敬称略)

柳 了堅

「全日本仏教全書」百巻

全日本仏教会

「望月仏教大辞典」十巻「寺院名鑑」

大東出版社

「印度撰述部」全百五十五巻

田中 隆恵

「スシエルタ本集」等三十一冊

竜谷大学

「日本浄土教の研究」等六十七冊

小計三六四冊 合計六四九冊

インド日本寺落慶

財団法人国際仏教興隆協会が釈尊成道の聖地ブタガヤに建設中のインド日本寺は本年12月落成の運びとなり、12月1日から10日まで各宗・各団体によって現地で毎日覆讃法要が営まれます。

12月8日には全日本仏教会によって落慶式が厳修されます。

詳細は下記の取扱旅行会社にお問い合わせ下さい。

— 指定取扱旅行会社 —

国際旅行業協会会員

運輸大臣登録一般154号

株式会社 子代田トラベル

東京都港区青山5丁目6番20号(千成ビル)
電話407-3612(代)・400-5100 郵便番号107

昭和四十八年三月一日発行
三月号 第一八五号

発行人 麻布照海 編集人 岩脇宏信

発行所 財団法人
東京都台東区西馬場一ノ五ノ五(東京本願寺内)